

は、元自動車ディーラーで永年勤めた上げたベテラン。それだけに、指摘事項は専門的であった。そのような状況で忌憚のない意見交換を行い、どの様な性能を目指し、当面、どのレベルで製品化するかなど探った。

今回の4WDトラックの開発発出点は、「コブさつぼろ」として、セクターの環境改善（特に、冬場に配送セクターでアイドリングを長時間行うことで、ディーゼルエンジンの黒煙や悪臭がセクターに立ちこめ、積込作業を行う環境にならないという状況となつてしまつていた。このような現実問題をどのように解決するかという解答が「LPG化」だったわけだが、昨年の大雪でつまづいてしまつた。

大雪で、2WDでは、積雪を克服することができなかった。そこから、「LPG化」を目指しつつも、現実の配送を行うためには、「4WD化」が必然となつたものである。

このような「コブさつぼろ」の積極的な姿勢がメーカーの腰を上げさせたのである。

今回の懇談で出された「改善目標」は実現すれば、それは現状では「理想の車」であるが、それを実現していくためにも、今回の開発を第1段階として、実績を積み上げていくことが求められていることを確認した。

そのことを確認したうえで今回の開発で手直しが可能なものは何かを協議し、技術的検討のために持ち帰る事とした。

